

### 山田清彦選挙事務所開き 5月21日盛大に開催！

### 脱原発の思いを六ヶ所村長選へ！県内外から熱い支援が続々！ 北海道泊村から瀬尾英幸さん(神恵内村長選立候補者)も駆けつけました

いよいよ闘いのスタートです！5月21日(土)『六ヶ所村長選挙勝利！山田きよひこ選挙事務所開き』が約30名の方々の出席のもと開催され、大いに盛り上がりました。

事務所開きは市民団体「六ヶ所村の新しい風」荒木茂信共同代表の進行で始まり、遠藤順子選対本部長が冒頭、山田さん擁立の経緯と自身の前回選挙戦を踏まえて本選挙を取り組む意義を述べながら、県内のみならず全国の熱い脱原発・反核燃の思いを背負い闘う決意を述べました。

その後、駆けつけた県内で反核・反原発を取り組む政党や団体の代表が連帯の挨拶を述べると共に、北海道泊村から高レベル放射性廃棄物最終処分場に名乗りを上げた北海道神恵内村長選挙に果敢に挑んだ瀬尾英幸さんも力強い支援表明がありました。

また立憲民主党の田名部匡代参議院議員をはじめ県外を含む多くの団体の連帯のメッセージが披露されました。

その後、参加メンバー内で年内に選挙へ立候補予定の小熊ひと美さん(10月：青森市議選：写真左)、久慈年和さん(12月：十和田市議選：写真右)の紹介と激励の拍手が送られました。



最後に山田清彦予定候補の力強い決意表明、三上武志「六ヶ所村の新しい風」共同代表のガンバロー三唱で選挙戦の必勝を誓い合い、ジュースによる乾杯で締めくくりました。

告示日まで、もう2週間を切りました。全国の仲間と手を携えて山田村長誕生へ総力を挙げましょう！



決意表明をする山田さん(左は遠藤選対本部長)

### 連帯のごあいさつやメッセージをいただいた団体や方々

《ごあいさつをいただいた方 敬称略》※あいさつの概要は次ページに掲載しています。

- 六ヶ所村に新しい風をおこす会…副会長 大竹 進
- 社民党青森県連合…代表 今村 修
- 青森県労働組合総連合…議長 奥村 栄
- 日本共産党上十三地区委員会…委員長 市川 俊光(東北町議会議員)
- 社民フォーラム青森…幹事 久慈年和(十和田市議会議員)
- 北海道神恵内村長選挙立候補者…瀬尾 英幸

《メッセージをいただいた方 敬称略 順不同》

- ・核燃料廃棄物搬入阻止実行委員会(代表：古村一雄)
- ・青森県平和推進労働組合会議(議長：阿部一久)
- ・参議院議員田名部匡代
- ・若狭/小浜から(中嶋哲演)
- ・美浜町議会議員(松下照幸)
- ・ストップ川内原発3.11 鹿児島実行委員会(共同代表：向原祥隆)
- ・日本共産党書記局長(参議院議員：小池晃)
- ・さよなら原発神戸アクション(共同代表 高橋精巧)
- ・六ヶ所の新しい風(幹事：川崎市/三枝豪)
- ・核燃だまっちゃおられん津軽の会
- ・核燃サイクル阻止一万人訴訟原告団(代表：浅石紘爾)
- ・三陸の海を放射能から守る岩手の会
- ・原発の危険性を考える宝塚の会(田中章子)
- ・若狭の原発を考える会(木原壮林)
- ・基地のない平和で豊かな沖縄をめざす会(共同代表 高橋精巧)
- ・鹿児島県内科医(内科医：横山富美子)
- ・核の中間貯蔵施設はいらない！下北の会(代表 野坂庸子)



ガンバロー三唱(三上本部長代行)

～連帯のあいさつの概要です～

六ヶ所村に新しい風をおこす会  
副会長 大竹進



4年前の村長選では反核燃票が6.7%程度あった。今回はこれを上回る活動を強めよう。六ヶ所の地から脱原子力、新しい地域作りを選挙戦を通じて発信しよう。トリチウム汚染水の危険性も強く訴えるべき。

社民党青森県連合  
代表 今村修



今日では自民党でさえ核燃政策の転換を求める声が出ている。六ヶ所巨大開発構想の失敗を隠蔽した結果が現在の核燃中心の村政に至っている。国や青森県の無責任さを徹底して追及する闘いとして頑張ろう。

日本共産党上十三地区委員会  
東北町議会議員 市川俊光



現在の海洋汚染水問題は福島事故からの教訓を学んでいない。もんじゅ廃炉で核燃政策はすでに破綻している。再処理については地域住民も安全稼働に疑念があるはず。現地で新しい風を起こし県政も変えよう。

青森県労働組合総連合  
議長 奥村栄



労働者が働き続け、生き続けるために原発、核燃は止めさせるのが急務。原子力船の闘いでは県民が押し返した。こうした力で県政に立ち向かう時が今来ている。共に頑張ろう。

北海道神恵内村

村長選挙立候補者 瀬尾英幸



神恵内村長選に挑戦できたのは大間の熊谷厚子さんや遠藤順子さんに勇気もらったのが大きい。現在は原発が抱える健康被害に取り組んでいる。この闘いが全国に波及する意義は大きい。ぜひ頑張ってください。

社民フォーラム青森

十和田市議会議員 久慈年和



山田さんとは社民党時代に上十三総支部長と幹事長というタッグで活動してきた。特に地域内での反核燃の学習会では尽力をいただいた。何としても、持ち前のパワーでこの選挙を闘いぬいていただきたい。

～連帯のメッセージ～

核燃料廃棄物搬入阻止実行委員会 代表 古村一雄

電気事業連合会が六ヶ所村に再処理、ウラン濃縮、低レベル放射性廃棄物施設の、いわゆる核燃サイクル施設3点セットの立地が表面化してからおよそ40年。

山田清彦さんは、反核燃の旗を高々と掲げ、この40年間、県内はもとより、全国の先頭に立って、その中核として活動してまいりました。

いまや、わたくしども反核燃運動の指導者として、「余人をもって代え難い」貴重な存在となっています。

村長選挙立候補を耳にしたとき、わたくしは驚きました。山田清彦さんは、県内の数々の反核燃団体の役職を担っています。村長選挙よりも目の前の訴訟や署名などの活動を優先すべきではないのか、と。でも、山田清彦さんは一顧だにしませんでした。迷いもブレもなく、むしろ高揚しているように見受けられました。「泣く子と地頭には勝てぬ」という諺が頭をよぎりました。が、しかし、よくよく分別してみれば、アメリカ駐留軍の軍事基地下の町で暮らし、再処理施設の恐ろしさを誰よりも知り抜いている山田清彦さんです。あたかも、ロシアがウクライナに一方的に仕掛けた侵略戦争において、原発さえも標的にした事実から、再処理施設が戦争に巻き込まれれば、青森県のみならず日本そのものが取り返しのつかない事態に陥ると受け止めているのではないだろうか。

核燃サイクル施設周辺には、基地や射爆場などの軍事拠点が集中して隣接していることもあって、相当の危機感を抱き、六ヶ所村長選挙を優先してたたかう決意をしたのではないかと思います。

核燃料サイクルのメッカ、六ヶ所村の村長選挙です。厳しいことは重々承知の上での挑戦・チャレンジでしょう。事ここに至れば、40年に及ぶ核燃サイクル反対の活動経験を訴える場として、心置きなく闘ってください。

山田清彦さんの善戦を祈念し、応援し、これからもオピニオンリーダーとして、今後の反核燃・脱原発の闘いを一致団結、さらに進化させることを期待しています。



事務所の風景

～連帯のメッセージ～

核燃阻止1万人訴訟原告団 代表 浅石 紘 爾

事務所開きのご案内を頂きましたが、所用のため出席できないことをお詫び申し上げます。

先日、原告団の運営委員会におきまして山田事務局長の村長選立候補について「全面的に支援する」旨、決定がなされました。

短い選挙期間ですが『小さな村の大きな選挙』を勝ち抜くために原告団メンバーできる限りの協力と支援を行います。山田候補の健闘を心からお祈りしております。

～連帯のメッセージ～

参議院議員 田名部 匡 代

山田清彦さんの事務所開きをお慶び申し上げます。

ロシアによるウクライナ侵略を一日も早く止める為、世界と連帯し、より強く撤退を迫っていかねばなりません。世界と日本の平和の為にも私も頑張ります。

山田清彦さんを支えておられる、本日ご参会のみなさまの更なる結束をご祈念申し上げます。

～連帯のメッセージ～

核燃・だまっちゃおられん津軽の会

《私たちは山田清彦さんを応援します!》

青森県の下北半島は多くの原子力施設が存在する世界的にも特殊な地域です。その中でも、再処理工場をはじめとする核燃料サイクル施設を有する六ヶ所村は、さまざまな交付金等により金銭的には潤っているようにも見えますが、国の政策に翻弄され、原子力政策の大きな矛盾が剥き出しになった所です。今後、再処理工場が本格稼働すれば多くの放射性物質が放出され、また不安定な国際情勢の中で六ヶ所の住民は大きな危険に晒されることになります。

一方、貯まり続ける高レベル放射性廃棄物の最終処分地の選定は一向に進まず、このままでは青森県がなし崩し的に最終処分地になってしまう恐れが高まっています。

すでに破綻している核燃サイクルを断ち切り、国の原子力政策、エネルギー政策を根本から見直し、青森県を高レベル放射性廃棄物の最終処分地にしないために、六ヶ所村長選挙候補者山田清彦さんを心から応援します。

～連帯のメッセージ～

青森県平和推進労働組合会議 議長 阿 部 一 久

日頃より、反核燃運動の先頭に立って活動をされています事、そしてこの度、反核燃運動を共に闘う私たちを代表するかたちで、六ヶ所村村長選挙に立候補を決意されたことに対し心から敬意を表します。

国は福島第一原発の事故以来停止した原発を、あくまでもベースロード電源とするエネルギー政策を変更もせず再稼働政策を押し進めています。

ロシア軍によるウクライナ侵攻では、原発・核関連施設はテロや事故以外にも有事の際には、国際的ルールも無視され敵国の攻撃目標となる事が明らかになり、私たちが今後も安心・安全に暮らし続けていくためには無くしていかなければならない施設であることがハッキリしました。

また、核廃棄物の最終処分地の決定や安全性を確保した処分方法も確立されていない現状において、これ以上「核のゴミ」を増やし続け、子や孫の世代に「負の遺産」として残すことは絶対してはなりません。

青森県平和労組としても「反核・脱原発」の運動方針のもと、「反核燃運動」の前進・拡大をめざすと共に六ヶ所村村長選挙勝利に向け、できる限りの支援・協力の取り組みを展開する事を申し上げメッセージと致します。

～連帯のメッセージ～

核の中間貯蔵施設はいらない!下北の会 代表 野 坂 庸 子

原子力船むつが進水し当市へ入港し、はや50年超、使用済み核燃料の中間貯蔵施設構想が浮上して22年、私たちの街は地域振興に名を借りた原子力半島化政策に翻弄され続けて来ました。

こうした中、美しい郷土を未来に残したい、子どもたちにこのままの形で伝えたい、そうした私たちの手探り、かつ暗中模索の活動に科学的かつ理論的に息吹を吹き込んでくれたのが山田清彦さんでした。

再処理事業成立が大前提の中間貯蔵施設です。しかしこの事業が絶望的な今日、私たちの街は中間貯蔵ならぬ永久貯蔵以外の何ものでもありません。再処理事業が断念に追い込まれば中間貯蔵施設も存在の大義名分を失います。

むつ市当局も当地が核のゴミの最終貯蔵地となることへの懸念を持ち続けています。その証拠に昨年の経産省のエネルギー基本計画のパブコメへその懸念を提出しました。

山田清彦さんの奮闘で一日も早く再処理事業を断念させ下北半島を、青森県を、ひいては日本全土を核の恐怖から守るためにも山田清彦さんの必勝をご祈念致します。

【おことわり】連帯のメッセージ文面は紙面の都合上、県内の各団体を中心に掲載しましたのでご了承ください。

選挙活動支援カンパにご協力を!

厳しい、そして手作りの闘いです。すべての運営は全国の仲間からのカンパで行っています。全国のみなさまの熱いご支援をお願いします。

カンパの送付先……ゆうちょ銀行振替口座

【口座番号】02280-0-123463

【口座名称】六ヶ所村に新しい風をおこす会



選挙事務所でもある六ヶ所村泊地区の種市信雄さん宅に永年掲げられてきた反核燃のシンボリックな2つの看板です。(泊集会所の隣で、かなりの大きさなので目立ちます。)

# 六ヶ所村に新しい風をおこす山田きよひこ6つの選挙公約

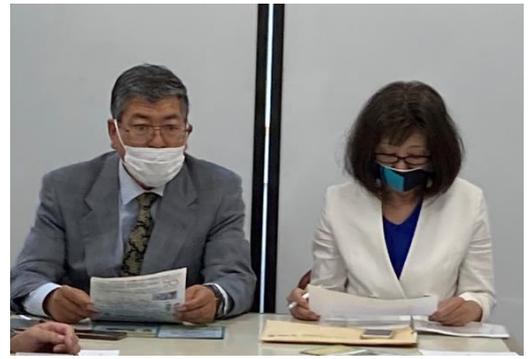
- ① 再処理中止など核燃サイクル事業の転換。
- ② 原子力防災範囲の見直しと拡充。
- ③ 農業の6次産業化などを推進。
- ④ 漁獲物のブランド化など漁業を大切に育成。
- ⑤ 心と体の健康づくりへ村営介護入所施設の整備。
- ⑥ 縄文遺跡群を活用した村おこし。

## 山田きよひこ予定候補、選挙公約を記者発表！

山田さんは事務所開きに先立ち、5月19日、遠藤選対本部長、三上選対副本部長と共に青森県庁で記者会見を行い、上記の6項目にわたる選挙公約を発表しました。

とりわけ、使用済み核燃料の再処理工場は高速増殖炉もんじゅの廃炉などで非現実的であり、核燃マネーが地域にもたらす効果は未来永劫続くものではないことを第一に挙げました。

また、農業の「6次産業化」すなわち、農業者（1次産業）が、農産物などの生産物の元々持っている価値をさらに高め、それにより、農業者の所得向上を目指すことや漁業の振興など、本来の地元産業の育成こそ村政の柱とすべきとしています。（写真は選挙公約会見の様子）



## 遠藤順子選対本部長が「はんげんぱつ(反原発)新聞」に投稿した内容を転載しました。 山田さん擁立の経緯や、この選挙戦の重要性を訴えました。

4年に一度は必ずやって来る青森県六ヶ所村長選挙は、いよいよ今年の6月だ。4年前は反核燃候補の擁立が難航し、結局、告示日1ヵ月前に不肖ながら私が出ることになってしまった。「今回はできるだけ早く反核燃候補を擁立しよう」と関係者が昨年暮れから動き回っていたが、やはり、なかなか決まらなかった。

候補者になれば、その個人に体力的・時間的、さらには社会的負担が掛かってしまう。選挙期間のみでなく、出馬を表明した途端に「候補者」となり、それに向けたあらゆる準備が始まってしまうのだ。相当な覚悟が必要だし、なかなか引き受けられる人などいない。

しかし、4月上旬にようやく候補者が決定した。三沢市在住の本紙編集委員山田清彦氏だ。山田氏は長く再処理工場などの問題を調査・追及してきた第一人者であり、現在は、核燃サイクル阻止1万人訴訟原告団の事務局長も務めている。願ってもない最良の反核燃候補だ。全国的な知名



度も高いから、全国からの支援や応援も集まるだろう。様々な任務や役割を抱えながらも、本当によく決断してくれた。感謝しかない。

しかしながら、六ヶ所村長選で勝利することは極めて難しい。六ヶ所村は現在人口およそ10,000人、世帯数4,900世帯強。その8割近くは親族が何らかの形で「日本原燃(株)」に関係している」と言われている。反核燃候補にとっては、難しい選挙だ。かつて、核燃を受け入れるかどうかで「賛成反対真二つ」だった村も、今は推進一色に染まっている。表立って「核燃反対」と主張できる人はごくわずかだ。

それでも、福島原発事故後、流れは少し変わったようにも思う。着工から29年が過ぎても未だに稼働しない再処理工場に対し、村民は「完成できなくても工事だけ続いて仕事があればいい」という考えになってきている。ならば、再処理工場中止を決定して、放射線の被ばく管理を徹底し廃止の工事でもいいではないか。廃止し終わるには30年から40年以上かかるのだから。国は、再処理工場中止を直ちに決断すべきだ。（5月20号より転載）

## 事務局からのお願い **告示日当日のポスター貼り行動へご協力を！**

村長選挙は6月7日（火曜日）告示、12日投票です。六ヶ所村は名前の通り、かなりの集落の集合体です。公営掲示板もかなり広範囲に点在します。ぜひとも、みなさんのお力をお貸しください。



【日 時】 **6月7日**（告示日：火曜日） 午前**9時**（時間厳守でお願いします）  
【集合場所】 六ヶ所村役場庁舎前にお集まりください。  
※山田きよひこ候補の第一声街頭演説終了後にポスター貼り行動に分散します。